













商 況

東京米市特電  
兵庫米市特電  
大阪米市特電  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情



Illustration of two people in traditional Japanese clothing, one seated and one standing, possibly in a domestic or professional setting.

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情

米市行情  
米市行情  
米市行情



新政八周年

されてゐた。我國に於て此の事あり  
 知らず。我國に於ては實に彼  
 心一齋齋の緒をゆめ直さなくては  
 ならぬ。我輩は一介の武弁である  
 故に政治の細部を渉つて要言する  
 暇に限りでない。且我國進が史上未  
 有の變に際し、我國國民が史上未  
 だ於て遺憾なきの追を講ずる事を爲  
 政者に希望せざるを得ない（某地）

佐々木峯雪

七  
 待（七）

應近

應近は疑ひの目、自由新聞の  
 面や舉動を窺つた。けれども、自由  
 新聞は、確ち、其の意は疑ひの目  
 で、假令、何れ、其の意を切つた、  
 一、なにもお前を疑ふことが、無  
 若しか、お前の中に、思つてゐる  
 了は、わたしの兄弟共が、あなた  
 被仰るの、でございませう。なん  
 一、な、く、密に、だ、は、疑  
 「それ、でも、さう、お前、を、掛つ  
 たやうでございませう。お前、の、解  
 下、頂、き、ま、せ、う、わた、し、は、疑、ひ、も、ほ  
 ませんし、又、兄弟共も、其の、一、部  
 も、外、は、出、さ、し、ま、せ、ん、か、一、日、其  
 わたしの家をお調べ下さい。其の  
 時、な、し、兄弟共の中に、そんな、部  
 合、な、者、が、あ、り、ま、し、た、ら、わた、し、も

軍事參議官陸軍大將 井口省吾氏談

[illegible]

「さ、それが……嫉妬や」

「嫉妬」主左衛門は鼻端に目を光りた。

「なにもお誂を誂ないふのでも感ぜりや、さう思ふのでも無いが、若しやお誂の事柄中に他の弟子の若くとも思つて啼く實は……」

「うやなでございませう、日郎様はわたしの弟子が若くお誂ひを……」

「いや海うごふ午後や無いが實のさう思はな、午後の三時頃か入つた時は、ちやんさ机の上で頭を告げて歸つて来た」

主左衛門は身に登る無毛觸ひを拒みけられたので、面白からぬ機嫌で頭を告げて歸つて来た。

「怒つちや困ら、なに、お誂はお誂云ひ切つた誂や無いが」

「……一應お誂へ下さう、お誂へた受けた上聞るい主左衛門になら度ございませう、此身に無毛觸ひを御いせうございませう、日郎様是非お誂へ下さうといふ、我々う上にて云つた、御うづつて呉れや御つて聞る……」

「いやそれでも是非にお誂へな……」

日本<sup>ニ</sup>義<sup>ヲ</sup>特<sup>ニ</sup>に神道<sup>ニ</sup>に就<sup>キ</sup>き  
忠孝一本<sup>（中）</sup>

[illegible]

もし、調べも發見し、一向それらしい思はれぬ。云うて昨日は他に客容も無しるので、ひよつと……藤兵衛は刺りに疑ひの眼を左衛門に投じた。

「其の横歩かといふのは、こんな色合ひでござい、ますな。其の體は大宛に機嫌よ來た。」

『横歩か、その横歩は紫、なんぞや』と性したるあたりから、一心に左衛門の素性を尋ねた。「それからお金は何程までございませう。」

『金が……金にした事で無い。二百千兩はしちや』と答へた。さう云うにして驚愕をこぼした。

中秋寄懐  
小水舟神松  
月色佳情滿酒船。後樓可倚快公閑。  
楓江雁影歸鴻跡。遠浦漁歌起白煙。  
細軟衣上露華香。暮衫彩袖意留連。  
亦隨流水如流水。處處離愁萬里川。

光緒帝君  
庚子年九月廿二日  
讀此詩時正望月  
樓上。彩雲飛渡。銀蟾初照。風生荷葉。涼生竹簟。清輝滿世。可以消文。  
酒。醉後。幽齋靜語。興與高懷俱發。而。  
覺微涼。輒述詩情。以興。高懷俱發。而。  
學蘭曰。老健無雙。後日蘇軾雄之致。

中秋寄懷  
同馬 五山  
好興助朋酌酒時。良宵追約上高樓。  
樓前明月流清影。月下明河映綉帏。  
里秋分故山近。山近更來真賞期。  
爲歡不惜狂吟詠。何待朋儕共賦詩。

曾長  
鐵道  
廠就  
早道

內察見本送呈

前鐵道  
副總辦  
工學博士  
野田龍太郎  
入會最所機

東京市豊明區  
有樂町二丁目四

大日本鐵道講學會

鐵道講義錄

本社  
東京市京橋區銀座屋敷町一丁目一

電話號碼特長九五八番貿易部  
同 特長九六九番貿易部  
同 一三五番保險部  
同 一九七五番(電報)  
同 二五八一番外國部

[illegible][illegible]

<p>何仕様に使ける 「御香」 「一房をかいて」</p>	<p>六四三二日 日日日日 七五日 日名は京城只親領局請を文馳の川</p>	<h1>米穀調製用具</h1>	<p>▼收穫に必要なすべての器具を整へ居候▼</p>	<p>日本店——京城南大門通</p> <h2>は 京城の戸田春藏本店へ</h2>	<p>■工場——京城北米倉町</p>	<p>▼品質を第一の標準として製作致し居り候▼</p>	<table border="1"> <tr> <td>稲扱</td> <td>唐箕</td> <td>萬石</td> <td>篩類</td> </tr> </table>	稲扱	唐箕	萬石	篩類	<h1>冬衣新柄流行品 新荷着仕候</h1>	<p>よせざれ見切反物大賣出しは 来る十月十日迄</p>
稲扱	唐箕	萬石	篩類										



委員會に於て講和に關する聲明を  
樞威頼に失墜し武斷が獨派

後本  
 爲め  
 其  
 備擴張  
 軍備擴張の必  
 是は敵軍周旋な  
 注意を要す  
 友會も固より其必要を  
 なり二十日（東京）

も恐らくは種々の事情の爲

へひる  
 職人會にては、今般入京の、同職の者有、  
 一行を四日、四月、船に相附すべしと、  
 又大笑ひ

三つ起の如電と所  
る方二一四回

**木材値上廣告**  
 來ル十月一日ヨリ朝鮮總督府營林廠木  
 材販賣價格約一割値上相成候ニ付此致  
 廣告仕候也  
 大正七年  
 九月二十九日  
 京城材木商組合

**謹告**

平壤鐵業所製無煙煉炭は國產炭價格ニ其功の御指定に基き  
 開賣致す事に相成候。然レ此炭は年以來各炭の製造に乘じ便宜に基き  
 同様の販賣小賣店に見の節は不備を致す。數處に於て御通知度願上候  
**ピッチ入煉炭** 五百圓二噸 十五圓六十七錢  
 五十圓二箱 七十二錢  
**同**  
**粘土入煉炭** 五百圓二噸 十三圓六十三錢  
 五十圓二箱 六十三錢  
**同**  
 平壤鐵業所無煙煉炭特約店  
**苦米地商店**  
 京城古町 電話九四二

**優秀なる兩切煙草**

**東亞煙草株式會社**

**移轉御披露**

四方御最良様方の方とあに依り今同南山町二丁目松葉亭  
 前に移轉致しました就ては輕便を旨とし至極安便に御便利  
 相謀ります特に誇りとする處は小販數多數有之川魚料理す  
 き煙並に一品料理に有之候是非一度御試みのため御運び後  
 下度願上候

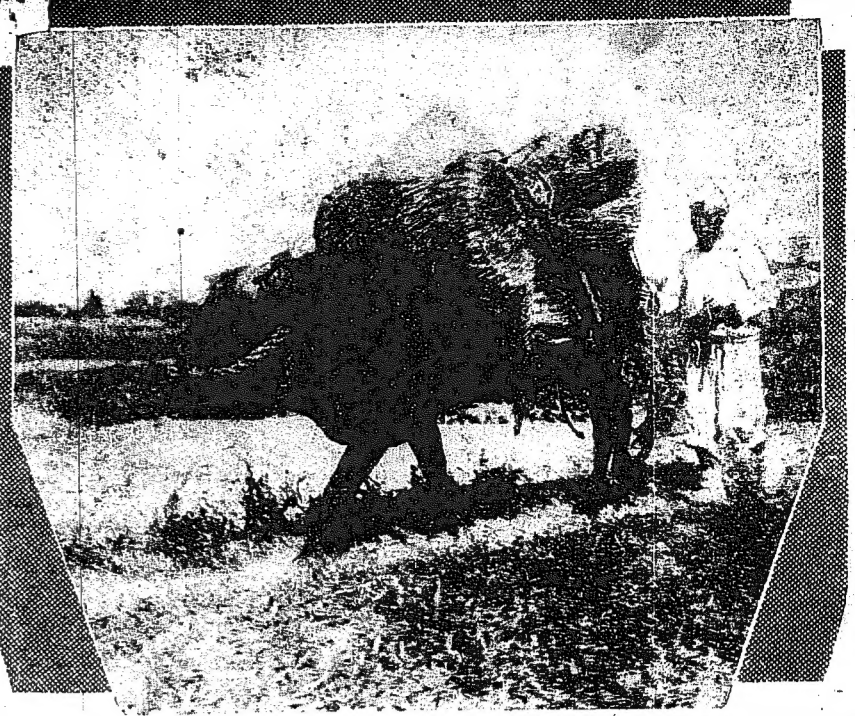
京城本町二丁目松葉亭前  
 川魚料理  
 品料理仕出し  
 電話一四番



▲十期以上低落を心 米穀政府の受付けたり云へば海難に因る

▲米穀政府の受付けたり云へば海難に因る

▲米穀政府の受付けたり云へば海難に因る



### 大塊翁の瘦我慢

二十餘年前の朝鮮人

井上侯に遊遊して物と一息

### 大塊翁の瘦我慢

二十餘年前の朝鮮人

水源池に毒薬

腕が鳴る獵季

米廉賣打切

今日のお伽

大塊翁の瘦我慢

大塊翁の瘦我慢

大塊翁の瘦我慢

大塊翁の瘦我慢

大塊翁の瘦我慢

戦地より

野戦の南瓜

配達人の惨状

孤兒院

可憐な弟は

少年書生探検

謝近火御見舞

仁川製鹽所

堀製鹽工場

公告

金館演夜書

謝近火御見舞

仁川製鹽所

堀製鹽工場

### 第七回勸業債券(拾圓)賣出

額壹千萬圓 利率年四分(毎年一月拂)

出 十月二日より十五日まで

くじびき 初回は本年十一月三日目迄割増金總當り

等級	金額	抽籤回数	抽籤日
一等	二千圓	二十本	本
二等	五百圓	五十本	本
三等	二百圓	一百本	本
四等	五十圓	二百本	本
五等	十圓	一千本	本

計 三萬六千四百圓

### サンエス萬年筆 定價改正廣告

サンエス萬年筆の業運は比喩を以て急激の發達を遂げ斯界の驚異事とせらるるは世間周知の事實に候はば本館が上にも品質の改良に腐心して能く限り低廉の實價を附する等總て誠實を旨とする營業方針が生み出したる必然の結果と自信罷在候然るに近時諸材料及び工賃の騰貴其他製造費著しく増加仕り從來の定價にて供給不可能と相成候付來る十月一日より少増額の改正定價を發表するに立至り申候増加は申す之を原料其他の騰貴に比すれば言ふに足るる少額に有之候採算不能の價格を附して品質の劣下を敢てするが如き固より本館の志に背する處本館は工場と熱練の工人とを運用して益々卓越の製品を供給するを唯一の目標と致候間何卒御諒察被下倍舊の御愛顧を賜り度此段謹啓廣告仕候也

特別第一號 改正定價圓八拾圓 右の外約二十七種を以て定價改正仕候間諸君御買入時御注意願ひ 又下段は舊定價表に御注意願ひ 同 第三號 改正定價圓七拾圓 一日改訂定價表第一號の定價表

サンエス萬年筆本館 東京 細沼淺四郎

### 朝鮮大地圖

朝鮮總督府編纂 八十分の一縮尺 全圖長一尺二寸五分 幅一尺二寸五分 全圖面積一平方尺二寸五分

發賣元 京城日報社代理部

東京三味線系 尾琴屋

電話二三五九番



小林鵬月作

[illegible]

駒子、覺めないとは云へんだら  
お前は藝者風情、侮蔑される

の、何よりも嫌ひな容子だが、大  
正式柳橋一流の藝者に、然う云  
ふのが跋扈して居るね。は、は、  
と隨ふが跋扈して居るね。は、は、  
は、は、  
前の清笑ひは、何でもないが、久  
三郎は、何よりも、藝を、誇つたやうな皮  
肉で、冷徹で、冷味、好きな侮蔑の  
笑ひを、つける。  
駒子は、その間、只、好く、嘲を、  
つて、不思議な、謎を、解き、惑ひ、つ、あ、あ、  
つたが、和、和、の、後、或る、機、機、  
なる、深意の、諷刺、の、た、なり、い、眼光も、  
鋭く、諷刺、の、鋭く、  
「明川さん、貴殿は何處からそんな  
事をお聞きなうになつたのか、知  
りませんが、何れの途も、う、お、知、り、  
になつた以上は、女、女、う、い、譯、は、  
します。如何にも、仰、し、

栗くりの上うへ皮かわを剥むいて

**前**の着上けて置いた菓を手に  
 盆の中へ入て水を引き能く蒸し  
 りてから飯櫃に移すのでありま  
 す。此の餅は普通の味附飯でござ  
 います。其に必要の味附飯と申しま  
 本總の要領は果の上皮を剥き去る  
 た實を一盃水中に破し搗攪した  
 のに入れて手で盛き廻し年々  
 も更に少しく之れにより水を適宜に混  
 て食料少量を加へざるべし。

照會は返信附にあつたれば回答せず

[illegible]

秘の渡鳥  
ねつろ ほんのうしはい  
▽ 強烈な本能に変換

○勇ましい  
秋の渡鳥  
△秋風は本能に変わ  
△されば秋波の旅に上る  
此頃 から晩秋にかけて  
の美しい晴た日な一  
群の渡り  
が鳴きつれて遠く山を越  
へて北より南に群けりゆく

讀者

追々宴會の手に入る  
 思ふに一人の他人會で  
 る聖人會さへへば  
 の多くは同國人用



讀者  
 讀者中比較的力者の集會であるが是が  
 の輩が能くは飲んだり食つたり舞へ

醫學博士大學

[illegible]

最近に於て設立され未だ事業

國崎氏の調べた所によると、雁  
一時間に九十哩、鴉は三十八哩

1-800-630-1000

ては引いた。そして慈悲の四を以て彼等と接觸せんことを切望す（鶏生）

鋼製品會社

二  
ウソ  
洗粉  
太正探  
目丁  
場  
番

初秋の

御家庭化粧料

ホンノリ色白くなる

レイトフールド

暑さ荒れの肌を整へ  
素顔を見るから美しくくする

よく瓶を振つて  
附けて下さい。  
一層よく効ます

レイトフールドの成分は非常に強うまいますから、附ける  
と直ぐ地肌へ吸収れ、其主成分の美容素が肌の根底から  
整へますから、暑さ荒れの肌は滑かに美しくなる上に  
不思議な作用によつて、ホンノリ色白くなる具合は、頗  
る自然で、いますから、御家庭の素化粧料、隠化粧料と  
しては實に天下一品で、います。

レイト化粧料本舗 東京 平尾賛平

[illegible]

This image shows a vertical strip of a document page. On the left side, there is a dark, textured binding edge. The rest of the strip is a lighter, textured surface, possibly paper or fabric, with some visible grain and minor imperfections. There is no text or other content visible in this strip.